



- ◆ (注意) 防除終了後は、SS タンク内の洗浄を徹底し、タンク内に薬液が残らないように注意する。
- ◆ (注意) オキシラン水和剤・キノンドーフロアブル等の有機銅を含む薬剤の年間使用回数は合計 9 回までとする。
- ◆ (注意) この防除暦は、予防散布を基本とする。特に梅雨期間は連続した降雨前に散布を完了する。

散布日	時 期	使用薬剤名	使用量	収穫前 使用 時期	年間 使用 回数	10a当り 散布量 (ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
月 日	第 1 回 3月下旬 (発芽前)	(水88ℓ) スプレーオイル 石灰硫黄合剤 * ①、②	2ℓ 10ℓ	発芽前 発芽前	— —	300	(黒星病) (腐らん病) (胴枯病) ハダニ類 カイガラムシ類	① 石灰硫黄合剤は隣接するハウスピーニールにかからないようにする。 ② 石灰硫黄合剤に代えて、トップジン M 水和剤の 1000 倍(前日、6 回)でもよい。 ③ (注意) 腐らん病感染予防として剪定した切り口に、トップジンMペーストを塗布する。
月 日	第 2 回 開花前 4月下旬	展着剤 サムコルフロアブル 10 * ② トップジンM水和剤 * ③	10mℓ 20mℓ 100g	前日 前日	3回 6回	300	腐らん病 輪紋病 (胴枯病) ケムシ類 ハマキムシ類	① 訪花昆虫に十分に注意する。 ② サムコルフロアブル 10 に代えて、ロムダンフロアブル 3000 倍(7 日前、3 回)でもよい。 ③ (注意) 赤星病の発生園は、オンリーワンフロアブル 2,000 倍(前日、3 回)を加用する。
月 日	第 3 回 5月上旬 (前回 10 日後)	展着剤 * ① ベンレート水和剤 モスピラン顆粒水溶剤	10mℓ 50g 25g	前日 前日	4回 3回	400	輪紋病 胴枯病 (腐らん病) アブラムシ類	① (注意) アブラムシ類の発生が早まる場合は、今回の散布を早める。 ② (注意) 腐らん病感染予防として剪定した切り口に、トップジンMペーストを塗布する。
月 日	第 4 回 5月下旬 (前回 10 日後)	展着剤 * ①、② ジマンダイセン水和剤 スミチオン水和剤 40	10mℓ 200g 100g	30日前 14日前	5回 6回	400	輪紋病・黒斑病 黒星病 ナシヒメシンクイ ハマキムシ類 アブラムシ類 カメムシ類 (ケムシ類)	① (注意) アブラムシ類の発生がみられる場合はウララ DF2000 倍(14 日前、2 回)を加用する。 ② (注意) カイガラムシ類の発生園はアプロードフロアブルの 1000 倍(30 日前、2 回)を加用する。
月 日	第 5 回 6月上旬 (前回 15 日後)	展着剤 ダズバン DF * ① オキシラン水和剤	10mℓ 33g 200g	21日前 3日前	3回 9回	500	輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 クワコナカイガラムシ (腐らん病)	① (注意) カメムシ類の発生園は、ダズバンDF に代えて、アルバリン顆粒水溶剤の 2000 倍(前日、3 回)を使用する。 ② (注意) 腐らん病感染拡大防止のため、病斑部等にトップジンMペーストを塗布する。
月 日	第 6 回 6月中下旬 (前回 15 日後)	展着剤 * ① カネマイトフロアブル ダズバンDF オキシラン水和剤	10mℓ 100mℓ 33g 200g	前日 21日 3日前	1回 3回 9回	600	輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 クワコナカイガラムシ ハダニ類 (腐らん病)	① (注意) 袋掛けの前に必ず散布する。また、輪紋病感染防止のため、散布後 3 日以内に袋をかける。また、葉やけ防止のために涼しい時間に散布する。
月 日	特別散布 6月末～ 7月初旬	展着剤 * ①、② オキシラン水和剤	10mℓ 200g	3日前	9回	600	輪紋病 (シンクイムシ) (ハマキムシ類) (ハダニ類)	① (注意) 連続した降雨が続いている場合は、今回の特別散布を実施する。死角ができないように散布量を多めに設定する。また、葉やけ防止のために涼しい時間に散布する。 ② 散布時期は前回より 7 日後を目安とする。
月 日	第 7 回 7月上旬 (前回 20 日後)	展着剤 ナリアWDG * ①、② サイアノックス水和剤	10mℓ 50g 100g	前日 7日前	3回 3回	600	輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 (腐らん病)	① ナリア WDG は、ピオーネ、サニールージュに薬害を生じる恐れがあるので飛散しないようにする。 ② 毎年輪紋病の発生が多い園では、ナリアWDG に代えて IC ボルドー412 の 30 倍を散布する。
月 日	第 8 回 7月下旬 (前回 20 日後)	展着剤 キノンドーフロアブル ダニサラバフロアブル * ① オリオン水和剤 40 * ②	10mℓ 100mℓ 100mℓ 100g	3日前 前日 3日前	9回 2回 2回	600	輪紋病 ハダニ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類 カイガラムシ	① (注意) 梅雨明けが早まる場合は、ダニサラバフロアブルを繰り上げて7月中旬に散布する。また、ダニサラバフロアブルに代えて、スターマイトフロアブル 2000 倍(前日、1 回)でもよい。 ② オリオン水和剤 40 に代えて、ダイアジノン水和剤 34 の 1000 倍(14 日、6 回)でもよい。
月 日	第 9 回 8月中旬 (前回 20 日後)	展着剤 キノンドーフロアブル イカズチ WDG	10mℓ 100mℓ 66g	3日前 前日	9回 3回	600	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類 (ハダニ類)	① オーロラ等の最終防除。 ② (注意) ハダニ類の発生園は、コロマイト乳剤の 1000 倍(前日、1回)を加用する。
月 日	第 10 回 9月上旬 (前回 20 日後)	展着剤 キノンドーフロアブル ダントツ水溶剤	10mℓ 100mℓ 25g	3日前 前日	9回 3回	600	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類 ケムシ類 コナカイガラムシ類	① ラ・フランス等の最終防除。 ② 死角ができないように散布量を多めに設定する。また、葉やけ防止のために涼しい時間に散布する。

◆ 安全・安心の農産物生産のために使用基準を厳守しましょう。

◆ 混用例：展着剤⇒液剤⇒乳剤⇒フロアブル⇒ドライフロアブル（DF）⇒顆粒水和剤（WDG）⇒水和剤⇒顆粒水溶剤⇒水溶剤